

後半気迫の1トライ

土佐塾、1勝果たせず

雨の中、懸命に走り続ける持ち前のラグビーで相手ゴールラインに再三迫ったファイフティーンは、ノーサイドの笛に膝をついて悔し涙を流したが、家族や生徒ら約200人が詰め

マークに展開封じられ

にキックを起点に先制点を奪われた。その後、も攻撃のキーマン、金崎主将が相手に囲まれ、展開ラグビーを封じられる中、ラックからバックスにつなげる相手の得点パターンで立て続けに失点を重ねた。父成朗さん(51)は「落ち着いていこう」。0-38で前半を

第94回全国高校ラグビーフットボール大会(毎日新聞社主催)は28日、東大阪市の近鉄花園ラグビー場で1回戦があり、県代表の土佐塾は黒沢尻北(岩手)と対戦し、5-43で敗れ、目標だった16年ぶりの「花園1勝」を果たせなかった。小

全国高校ラグビー

1回戦

土佐塾	00000	10005	反10
TGPD前	00000	10005	
TGPD後	64003	10005	反7
黒沢尻北	00000	10005	反7
合計	64003	20010	43計5

「徹底的にマークされている」。試合開始直後、FB金崎廉大朗主将(3年)は向かってくる相手FW陣にそう感じた振り返る。前半4分、黒沢尻北



黒沢尻北・土佐塾 前半、土佐塾FB金崎主将がタックルをかわして突進
近鉄花園ラグビー場で

圧力かわせず 力発揮できず
土佐塾・西村保久監督 相手のマークに正直に合わせ、圧力を正面から受けてしまった。ゲームメイクの面で反省が残るが、後半はキックのカウンタから縦の突破につなげて攻め込み、土佐塾らしさは出せたと思う。

ワンター。走り抜け」の一言から反撃が始まる。後半10分、指示通りキックからのカウンターで運んだゴール前5分、ラックから右へ展開し、WTB高橋海維選手(2年)が「なんとしてもトライを」と

「最後の攻撃だ。いくぞ」。後半25分、相手ゴール前20メートル付近でボールを受け取り突破を図ったFB金崎廉大朗主将(3年)。相手FWに阻まれ、こぼれたボールをつなぐとSH武田侑一郎副将(3年)は展開を試みたが、ノーサイドの笛に唇をかみ締め、小雨の降る空を見上げた。

最高の友と戦えた

主将 金崎廉大朗
副将 武田侑一郎
(ともに3年)

昨年の花園で初戦敗退した夜、宿舎で「これまで以上に厳しい練習で勝利を」と誓った。2人は幼稚園の時から幼なじみで10年間同じジャージーで戦った親友。新チームで主将、副将に指名され、ラグビー論や練習態度を巡り、取っ組み合いのケンカをしたこともあるが、2人の熱意に後輩も従った。

試合は序盤からリードを許す苦しい展開。「全員でボールを運んで走り勝負」。後半10分にはラックから武田副将が右に大きく流し、トライにつなげた。「よし」。しかし、堅い相手守備を最後まで崩すことはできなかった。

卒業後の進路は分かれるが、試合後の円陣では泣きながら抱きあい、「今まで本当にありがとう」。最高の友と戦った花園が終わった。



試合前の円陣で士気を高める武田副将(右)と金崎主将